

平成29年度第1回 物療校友会学術部放射線部会 勉強会

日時:平成 29 年 5 月 13 日(土) 18 時 30 分~20 時 30 分

場所:阿倍野市民学習センター 第1研修室

報告者:兵庫医科大学病院 中村 憲治

プログラム

1. 『当院での3次救急での取り組み~Hybrid ER 室について~』
大阪急性期・総合医療センター 宮原 哲也 先生
2. 『あなたにとっての良い放射線診療とは』
近畿大学医学部附属病院 西 環 先生
3. 『Mammography Tomosynthesis 臨床での現状』
明和病院 増田 奈々子 先生

報告事項

こんにちは。いつもお世話になっております。

物療校友会学術部放射線部会勉強会幹事の中村憲治です。

この度、平成 29 年度第 1 回目の物療校友会学術部放射線部会勉強会を開催致しましたので、勉強会の内容について簡単にご報告させていただきます。

1 演題目は宮原先生に大阪急性期・総合医療センターでの救急医療に対する考え方やそのシステムの変遷、また放射線技師としての業務の在り方や、どのようなことを意識して取り組むべきかといったお話を臨床例を交えて講演いただきました。ハイブリッド初療室の稼働により、一次救命から CT 撮影、そして IVR や開頭術といった手術も全て同室にて行われることにより、格段に一連の救命処置の時間が短縮され、患者の予後向上に寄与する非常に優れた設備・システムであるということでした。また一刻を争う救命の現場においては、やはり個人の熱意が仕事内容に影響を与える大きい因子であり、ルーチンの撮影業務だけではなく、次の一手を予測し迅速で正確な三次元画像を作成する等の追加業務を自ら行えるかが重要だということも教えていただきました。医師・看護師等の救命にかかわる医療スタッフで勉強会を定期開催し、日々の症例を動画で振り返りながら改善点を洗い出し、さらなる救命技術やスタッフ間の連携向上を図っているとのことで、その仕事に対するみなさんの姿勢は見習うべき所があると感じました。また次のステップに進まれた際、現在の取り組みがどのような変化を生んだのかを是非お聞かせいただきたいと思います。

2 演題目は近畿大学の西先生に、あなたにとっての良い技師とはなにかという大変壮大なテーマについて講演していただきました。西先生は主に放射線治療業務に携わられていた為、良い放射線治療とはということで、今までのご略歴に沿って、海外論文投稿・医学博士となられるまでの経緯と発

表・研究内容を簡潔明瞭にお話しいただきました。講演の中で当勉強会ではお馴染みのスグキクで西先生の質問に対する参加者の意見をスライド上に可視化する手法も用いられました。目指すべきは最先端か最前線という質問に対し、講演前は大多数が最前線と答えましたが、講演後は最先端・その他という意見もかなり増え、興味深い結果となりました。臨床にも研究にも全力で打ち込まれている方の考え方を知ることができ、また1人1人がどういう技師になりたいかを考える良いキッカケともなり、個人的には1時間枠で聞きたいぐらい内容の濃いお話だったと思います。

3演題目は明和病院の増田先生にマンモグラフィ・特にトモシンセシスに焦点を絞って詳細に教えていただきました。技師として乳がんの早期発見の重要性は理解しているつもりでしたが、乳がんの統計から11人に1人が罹患している現状には驚かされました。断層撮影の原理を用いたトモシンセシスは投影角度を変えて複数の投影データを得ることにより、二次元では乳腺組織に重なっていた腫瘤を明瞭に描出することができるとのことで、臨床例を豊富に提示していただくことにより、その有用性を実感できました。また乳房圧迫時間の増加による患者の痛みも、装置技術の向上によりむしろ軽減されているとのことでした。質疑応答の時間も、診療報酬や断層画像の測定距離精度についてなど活発な意見交換があり、マンモグラフィの関心の高さを感じました。これからも検討を進めていただき、被ばく線量を考慮したトモシンセシスのみの撮影でも十分な診断能を担保していることを示すことができれば素晴らしいことだと思います。

今年度最初の勉強会は現役の技師の方々に加え、物療大学の現役学生の方にも多数参加いただき、大変うれしく思っております。参加していただいた方々に感謝いたします。本勉強会は学生の方々にとっても実際の現場で働く先輩と交流できる数少ない場です。これからの学生生活で大変な事や辛い経験をすることもありますが、少しでも当勉強会の発表内容や人のつながりがお役に立てると幸いです。今後もたくさんの参加をお待ちしております。



作成日:平成 29 年 5 月 20 日